



非常時に備え、発電機のメンテナンスを欠かさない橋本さん（愛知県田原市で）

畜産 災害への備え

停電や断水による畜産や酪農への被害が拡大した能登半島地震の発生から1日で2カ月。災害の影響を最小限に抑えるために重要なのが、日々の備えだ。過去の災害をきっかけに各地で普及する自家発電機は、適切なメンテナンスをしていないと非常時に使えない可能性があり、定期的な点検が必要だ。

▶ 1面参照

自家発電機の点検定期的に

愛知県田原市の酪農家

バッテリー確認、稼働手順も記す

愛知県田原市で乳牛約170頭を飼養する橋本良典さん（51）は月に1回、発電機を1時間ほど稼働させ、状態のチェックを欠かさない。「牧場は渥美半島の端にあるので、停



電時は電気の復旧までに時間がかかる。いつでも電源が使えるよう備えている」と話し、能登半島地震の被害を「人ごとではない」と捉える。

橋本さんは2019年に、台風による1日半の停電を経験。これをきっかけに、搾乳ロボットやバルククーラー、飲み水の確保に使うポンプ用の最低限の電源確保のため、愛知県酪農農業協同組合のリース事業を使い、発電機と、発電機から各設備への給電に必要な配電盤を設置した。

点検時には、バッテリーの消耗具合や、燃料の状況も確認。正確に操作できるよう、発電機の目につきやすい所に、手順などを記したシールを貼る。橋本さんは「いざというときに安心して使えるようにしておくことが大事」と話す。

発電設備の出力が10

畜産経営での災害への備えのポイント

停電対策

- ・ 作業用の大型照明や懐中電灯などを決めた場所に用意
- ・ 搾乳などの電力供給のため自家発電機を準備
- ・ 携帯電話の充電用に車載電源用コードなどを準備

断水対策

- ・ 1日当たりの必要な水の量を確認
- ・ 大型車による給水に対応するため貯留タンクか簡易貯水槽用のシートを準備
- ・ 給水用の容器やタンクを準備
- ・ 地下水や河川の水をくみ上げるポンプなどを準備

全日本畜産経営者協会の「畜産経営者のための自然災害危機管理マニュアル」を基に作成

危機管理対応 マニュアルに

全日本畜産経営者協会は能登半島地震の発生を受け、22年にまとめた「畜産経営者のた

キワツ以上の場合には専門家による点検が必要となる。

めの自然災害危機管理マニュアル」をホームページのトップに掲示し、活用を呼び掛けている。

マニュアルでは、停電や断水時などの基本的な対策を紹介。停電対策では発電機を準備する手順として①必要な電力量を把握する②集落か利用組合単位または自前で確保する計画を立てる③配電基盤を設置する④接続に必

要な業者の連絡先を整理する――を挙げる。災害を経験した生産者や飼料メーカーの担当者らへの聞き取り結果もまとめている。「発電機のリースは需要が殺到し、順番待ちになった」「ガソリンスタンドも停電で軽油をくみ上げられなかった」など、日頃からの備えの重要性を指摘する意見が目立った。

（斯波希）